

欧州都市行政視察

雑感

留萌市助役

梅沢文敏

第14回 欧州都市行政視察調査団

目的 来るべき21世紀に向けた高齢化、国際化、情報化への積極的な対応が都市行政に求められていることから、これらの課題に関する先進国である欧州の諸都市の街づくりの実態を直接見聞することにより今後の街づくりに生かす。

日程 平成元年10月14日～10月29日(16日間)
視察地 コービー市(イギリス)、ロンドン市(イギリス) ウプサラ市(スウェーデン)、西ベルリン市(西ドイツ)、ウイーン市(オーストリア)、インスブルック市(オーストリア)

視察コース



北海道における北方圏構想の一環として、北海道市長会が欧州都市行政視察調査団派遣を実施してから、十四回目にあたり、この度その一員として参加させていただく機会を得、身にあまる光栄でありました。

然も東欧の政情が揺れ動きのきざしが見えかくれしていた時期でもあり、なかば緊張と不安のなかにも期待を秘めながらの出発であった。

視察日程は、十月十四日(十月二十九日)までの十六日間、四ヶ国六都市の生活環境、教育行政、社会福祉、都市開発等、行政全般にわたり訪問都市の印象について私なりの感じたままを綴って見ました。

イギリスのコービー市は、企業城下町として発展してきたが、一九七九年に製鉄所が閉鎖されるに及んで市の存続の危機に直面したが、現在ではコンピュータ部品工場等、多くの企業が進出し見事な再生を果たしている。

これは、企業誘致や工業団地開発などに力を入れ人口流出の抑制を図り、政府がコービー市のニュータウン開発を他の地域よりも優先させるこ



東ベルリン(ブランデンブルグ門)

ロンドン市では、市内を流れるテムズ河畔の両域には、産業経済の「帝国」とまで呼ばれたドックランド地区があり、この数年ウオターフロント計画が推進され、遊水公園、マリナー、ショッピング、そして古い倉庫を改造又は解体してオフィス街、劇場へと変貌しようとしている等、物流商港とは異なった新しい創造的なコミュニティーづく

を決定したものであるとこのことで、スコットランド文化を色濃く持つ都市であり都市再開発にかける意気込みを感じた。

ロンドン市では、市内を流れるテムズ河畔の両域には、産業経済の「帝国」とまで呼ばれたドックランド地区があり、この数年ウオターフロント計画が推進され、遊水公園、マリナー、ショッピング、そして古い倉庫を改造又は解体してオフィス街、劇場へと変貌しようとしている等、物流商港とは異なった新しい創造的なコミュニティーづく



オーストリアインスブルック市

にしている諸施策に深い感銘を受けた。西ドイツの西ベルリン市は、かの有名な「ベルリンの壁」に囲まれ東ドイツの中に浮かぶ「陸の孤島」といわれ戦後から今日までの長い間、東西の緊張という大きなうねりに揉れながら発展を続けてきた人口二〇〇万人の都市である。注目したのは、世界で六番目といわれるベルリンの国際会議センター(ICC)であり、人類が希求する未来施設としての夢とロマンが広大なゾーン一杯に満ち溢れている感じである。

オーストリア全人口の二〇%を占める。又、原油の産出するところでもあり、二八%～三〇%の原油を自国で産出しているとの事である。特に環境汚染については国全体として取り組んでおり、町の主な大通りは、並木と公園にふちどられ、プラター公園はもっと多くの緑を計画推進中であり、自然環境を大切にしている国民性を感じた。

インスブルック市は、永世中立国として、観光客誘致政策等に取り組んでおり、年間の観光客入込数は、約一二〇〇万人と聞き大変驚いた。又、特記すべきことに、近隣諸国に於ける六十五歳以上の老人は、三〇%を越えるという実情と、その対策に苦慮している事を聞き、日本、とりわけ北海道、留萌市も、中長期的高齢化社会対策推進計画の指針にそった、計画的諸施策の展開に一層努力すべきことを強く肌を感じた。



スウェーデンウプサラ市 説明をされたリンデウ行政局長(中央)

紙面の都合上、尽し得ませが、今回の行政視察を機に更に新しい意識改革に徹し、住民の幸せと地域の振興発展に一層の努力を続ける所存です。

最後に、欧州行政視察調査にあたり、市議会をはじめ多くの市民の皆様からのご助言と激励を賜りましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。